

平成31年度シラバス

東京大学全学研究科等横断型教育プログラム

Japan-Asian Studies Program Academic Year 2019 - 2020

明日をつくる 知の挑戦

日本・アジア学

- 参加資格**
Eligibility
東京大学の大学院生
(所属研究科・教育部は問いません)
All graduate students of the University of Tokyo
(Regardless of graduate school or educational department)
- 修了要件**
Completion criteria
12単位
(言語科目群は4単位まで)
12 credits
(No more than four from language-related disciplines)
- 修了証**
Certificate of Program Completion
東京大学が授与する
正式な修了証
Certificate formally awarded
by the University of Tokyo

「日本・アジア学」教育プログラムは、
文系・理系を問わず、激動するアジアを広く、
そして深く知ることができるカリキュラムです。

Introduction



「日本・アジア学」教育プログラムとは

日本を含むアジアについての教育活動を、部局と分野を超えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院学生のみなさんが、所属する研究科・教育部局固有の教育カリキュラムに加えて履修し、修了するものです。

本プログラムは、総合科目群と言語科目群に大別されます。総合科目群は、本プログラムの中核をなすもので、分野横断・部局横断のカリキュラムを通じて、日本を含むアジアについて理解を深めるものです。各研究科・教育部において正規課程の科目として実施される授業がこれに該当します。総論、社会・文化論、社会技術論、自然環境論、健康論、情報論、特論からなります。また言語科目群は、教養学部あるいは文学部の学部後期課程(3-4年生)で開講される外国語科目のうち日本・アジアと関わるものを、意欲ある大学院学生が履修することを奨励するものです。

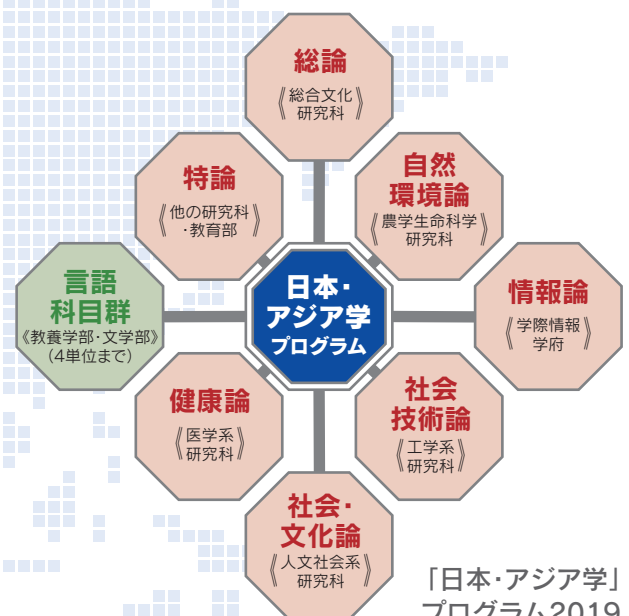
総合科目群のみから、あるいは言語科目群と総合科目群の合計で12単位以上を取得し、大学院修士課程または博士課程を修了(博士課程満期退学を含む)した場合に、プログラムの修了を認定し、修了証を発行します。ただし、言語科目群から取得した単位を、修了要件の一部とする場合には、4単位を上限とします。

Japan-Asian Studies Program

The Japan-Asian Studies Program is an educational undertaking that represents a new systemization and a newly comprehensive approach to Asia, including Japan, that transcends departments and fields. It can be participated in and completed by all graduate students interested in it as a supplement to the specific educational curriculum of whatever graduate school or faculty department they belong to.

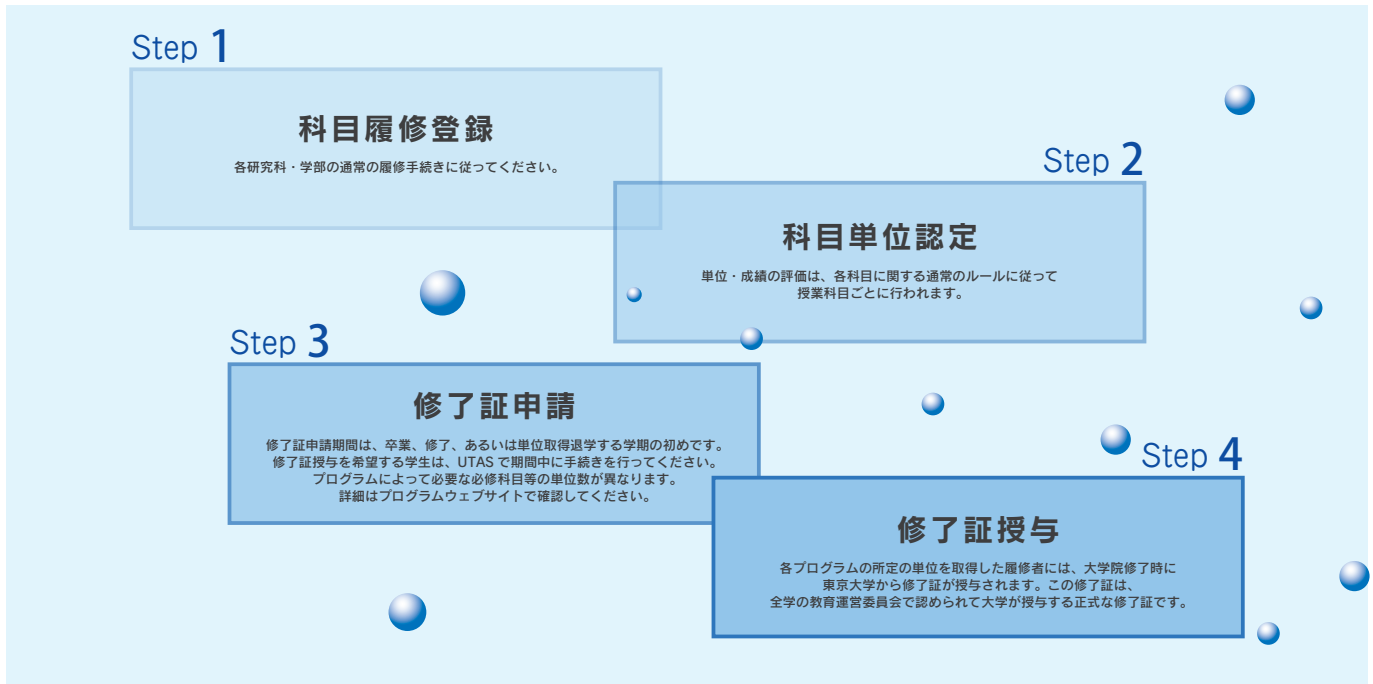
The program can be broadly divided into general and language-related subjects. The general subjects form the core of the program, and offer a deeper understanding of Asia, including Japan, by way of an interdisciplinary, interdepartmental curriculum. Classes held by each graduate school and faculty as part of its standard curriculum come under the program, which comprises Liberal Arts and Sciences, Society and Culture, Social Technology, Natural Environment, Health Sciences, Information Sciences, and Advanced Studies. Furthermore, when it comes to language-related disciplines, students who wish to do so are encouraged to take the Asian foreign language courses offered in the Undergraduate course senior division (third and fourth year) curriculum of the College of Arts and Sciences and Faculty of Letters.

In the case of a total of 12 or more credits having been gained from general theory-related disciplines only or from language-related disciplines and general theory-related disciplines, and with the completion of graduate program, recognition will be given of Japan-Asian Studies program completion, and a certificate of completion will be issued. However, no more than four credits may be gained from language-related disciplines for the purposes of satisfying completion requirements.



「日本・アジア学」
プログラム2019

Japan-Asian
Studies Program 2019



1 科目履修方法 **1. Program participation: Enrolling each course**

東京大学のすべての大学院研究科・教育部に所属している学生が履修できます。修了証の取得を目的とした履修だけでなく、個々の科目のみを履修することも歓迎します。

履修にあたっては、UTAS上で登録を行ってください。ただし、UTASに対応していない研究科・教育部局の学生は教務課にて手続きを行ってください。

また、履修する科目が所属している研究科・教育部の科目となっていない場合には「他研究科(教育部)履修」の手続きを、また言語科目群の履修は「学部科目履修」の手続きを行ってください。

All students in the University of Tokyo's graduate schools may take part in the program. Students who take part not for the purpose of gaining a certificate of completion but only for certain courses are also welcome.

To enroll, please follow the prescribed enrolment procedures of your graduate school. In case the course you are taking is not part of the graduate school to which you belong, please complete the "Other graduate school enrolment" procedures, or, for the language-related disciplines, the "Undergraduate course enrolment" procedures.

2 プログラムへの参加 **2. Program participation: Enrolling the program**

「日本・アジア学」プログラムに参加しようと考えている方は、下記のホームページで連絡先等の登録を行ってください。事務局から、適宜、連絡を受けることができます。

<https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/subscribe>

All students who wish to receive the Certificate of Completion are required to register at the following URL. The Managing Committee or the network office will hereafter provide you with necessary information.

<https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/subscribe>

3 修了 **3. Completion**

修了要件である12単位(言語科目群からは4単位まで)を満たしたものは、課程修了前(単位取得満期退学含む)にUTASにて手続きを行ってください。手続きの時期等は、各研究科の掲示板ならびにASNETのホームページにて通知されます。ただし、所属部局がUTASに対応していない場合は、所属部局の大学院係・教務係に手続きを聞いてください。

Please submit Certificate Request through UTAS website, if you are able to use the UTAS system. Otherwise, please ask the network office.

4 注意事項 **4. Important points.**

- 最新情報は常にホームページで確認してください。
- 何かわからないことがあれば、お気軽に事務局までご連絡ください。

- >Please check the website regularly for information updates.
- >Please direct any inquiries to the network office.

<https://asnet-utokyo.jp/>

<https://asnet-utokyo.jp/>

科目紹介

日本を含むアジアは、経済成長を続ける一方で、環境や経済格差、健康、地域開発、歴史認識等にかかわるさまざまな問題を抱えています。これらの問題群はいくつもの地域や専門領域にまたがっています。「日本・アジア学」教育プログラムは、文系・理系を問わず、激動するアジアを広く、そして深く知ることができるカリキュラムになっています。

もっとアジアを知りたい、アジアで活躍したいと考える皆さんの参加を期待しています。

科目群 (抜粋)

アジアを広く理解する

複数の地域や主題を扱い、広い視野からアジアについて学びます

- アジアにおける共生とマイノリティ
- アジアでがんを生き延びる
- Introduction to Asian Studies: History and International Relations
- 途上国農村経済論
- アジアの食と農・環境
- 農業からみたアジア史
- 国際地域保健学特論
- アジア経済論

アジアを深く理解する

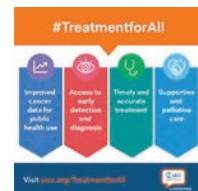
特定の地域や主題を扱い、問題の深層に分け入っていきます

- 朝鮮半島を取り巻く国際関係と韓国外交
- 東南アジア地域研究特論
- 書き直される中国近現代史
- 在外コリアンの歴史と現在
- イスラームとジェンダー
- サステナビリティ学特論
- Critical Issues in Southeast Asian Politics, Society and History
- 中国経済

Pick Up

アジアでがんを生き延びる /Surviving Cancer in Asia P.07 / P.25 がん × アジア × 未来

がんは現代をうつす鏡です。日本においては、生涯のうち二人に一人がかかる病とされ、アジアにおいても大きな社会課題となっています。がんの臨床研究は飛躍的に進み、AI、ビックデータ、IoTの恩恵を受けた次世代がん医療への期待が高まっています。本講義では、アジアに向けて何ができるかに視点を置きつつ、ジェロントロジー、地域社会、死生観、生涯教育、健康経営、SDGs、ESG投資、腸内細菌、癌ゲノム、ビックデータ、AIなど、今日的課題に焦点をあて、それぞれの第一人者の方たちと議論をしたいと思えます。がんという病を通して、今を生きるわたしたちが直面している問題の実像が浮かび上がってくるはずですよ。



サステナビリティ学特論—アジアの米・稲 P.17

稲は古くからあるものですが新しい課題や可能性も秘めています。

ベトナムの红河デルタは古くから小規模な区画に整然と稲が植え付けられているアジア有数の稲作地帯です。ベトナムは、過去半世紀の間に、世界の中で最もドラマチックな稲作の変化を経験した国です。灌漑のために堤防を構築し、施肥や品種の選択によって、米の収量を倍増させ、米の輸入国から世界屈指の輸出国に大転換を果たしました。ハイブリッド米、良食味米、もち米が、春稲、夏稲として年に2回収穫されています。しかし、河川水量の低下や温暖化による海水面の上昇によって、塩水遡上による水環境の変化と稲作への悪影響が出てきています。どのような未来への選択があり得るのでしょうか？ フィールドで稲を刈り、農家に会い、米を食べてみた現場の感覚を伝えながら、持続可能な稲作のかたちを探求していきます。



スタディツアー

ASNETでは、各国・地域のフィールドで最新の調査・研究を展開している専門家の協力を得ながら国内外でのプログラムを実施しています。情報や募集は随時(<https://asnet-utokyo.jp/news/asnet/5217>)でお知らせします。アジアを見たい、アジアを体験したい、という皆さんの参加を期待しています。

2018 年度実施ツアー報告

GLOBAL AGRICULTURE AND CULTURE

担当教員：荒木徹也（農学生命科学・ASNET 教員）、櫻井武司（農学生命科学）

日 程：2018年8月23日（木）～9月1日（土）

場 所：マニラ、ムニョズ、ソラノ



フィリピンのマニラから南東 65km のロスバニョスにある国際稲研究所 (International Rice Research Institute) の前で

参加者の声

「現場を訪れ、人々の話に耳を傾ける中で、現地の課題やアジアの抱える問題を知ることができた。私たちに何ができるのか、より主体的に考えるようになった。」

「国際関係や歴史認識問題などについて、日ごろから自発的に疑問を持ち、学んでいこうとする姿勢が求められるのだということを改めて実感した。」

台湾の法と社会

担当教員：後藤絵美（ASNET）、徐行（北海道大学）

日 程：2018年9月17日（月）～9月26日（水）

場 所：台湾・台北市、台中市、高雄市（台南市）



高雄大学法学院にて



友達になった学生に自宅でのバーベキューに招待されました（台北）

2019 年度予定

●青森県・恐山（2019年7月20日～21日）

●インドネシア・バリ島（2019年8月下旬）

●平戸・度島（10月下旬）

詳しい情報はこちらで→



Contents

目次

分野	授業科目 (プログラム授業名)	担当教員	学期	ウェブページ	ページ
総論	● アジアにおける共生とマイノリティ (地域文化研究特別講義 II)	後藤絵美・板橋暁子	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5152	P.06
	● アジアのフィールドワーク論 (地域文化研究特殊研究 III)	後藤絵美・梅崎昌裕	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5153	P.06
	● アジアでがんを生き延びる (地域文化研究特別講義 II)	赤座英之・河原ノリエ	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5154	P.07
	● 東南アジア地域研究特論 (アジア太平洋文化交流論 I)	岡田泰平	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5156	P.08
	● 「野の芸術」論—ヴァンキュラー概念を用いた民俗学的アート研究 (通文化研究基礎論 II)	菅豊	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5157	P.08
	● 途上国農村経済論 (アジア太平洋地域文化演習 III)	高橋昭雄	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5158	P.09
	● 人間環境論 IV	永田淳嗣	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5159	P.09
	● 朝鮮半島をめぐる政治・国際関係 (多元世界解析演習 II)	木宮正史	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5160	P.09
	● 多文化共生・統合人間学演習 III	園田茂人	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5161	P.10
	● 在外コリアンの歴史と現在 (アジア太平洋地域文化研究演習 II)	外村大	S/A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5164	P.10
	● Critical Issues in Southeast Asian Politics, Society and History (地域文化研究特殊研究 VII)	トンチャイ・ウィニツチャクン	A1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5155	P.11
	● 書き直される中国近現代史 12 (国際社会科学特別講義 IV)	川島真	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5162	P.11
	● サステナビリティの戦略 II	永田淳嗣	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5163	P.12
	● イスラームとジェンダー (地域文化研究特殊研究 III)	後藤絵美	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5165	P.12
社会・文化論	● イスラム美術研究 (1)	榎屋友子	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5166	P.13
	● イスラム美術研究 (2)	榎屋友子	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5167	P.13
	● 韓国の社会問題と社会政策 (1)	金成垣	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5168	P.14
	● 韓国の社会問題と社会政策 (2)	金成垣	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5169	P.14
社会技術論	● 社会基盤イノベーション E Innovations in Civil Engineering	小松崎俊作	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5170	P.15
	● 国際プロジェクトのケーススタディ E Case Studies of International Project	小松崎俊作	S2	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5171	P.15
自然環境論	● アジアの食と農・環境 (農学国際特論 III E / 環境政策特別講義 E)	荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5172	P.16
	● 国際農業と文化セミナー	荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5173	P.16
	● 国際農業と文化実習	荒木徹也	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5174	P.17
	● サステナビリティ学特論—アジアの米・稲	鴨下顕彦	集中	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5175	P.17
	● 農業からみたアジア史 (農業史特論 I、II、III、IV)	松本武祝・戸石七生	S/A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5176	P.18
	● 連帯経済とソーシャル・ビジネス (汎アジア経済論 III、IV)	池本幸生	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5177	P.18
健康論	● 国際地域保健学特論 I	神馬征峰	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5178	P.19
	● 人類生態学特論 I	梅崎昌裕・小西祥子	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5179	P.19
	● 医療コミュニケーション学講義	木内貴弘・奥原剛ほか	S1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5180	P.20
	● 医療コミュニケーション学演習	木内貴弘・奥原剛ほか	S2	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5181	P.21
	● 精神保健学特論 I	川上憲人・西大輔	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5182	P.22
	● 精神保健学特論 II	川上憲人	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5183	P.22
	● 健康社会学	橋本英樹	A1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5184	P.23
	● 健康教育学	橋本英樹	A2	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5185	P.23
情報論	● International Conflict Study (ITASIA124)	FUJIWARA Kiichi	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5186	P.24
	● Introduction to Asian Studies: History and International Relations (ITASIA101)	AOYAMA Waka, IKEGAME Aya, MATSUDA Yasuhiro, ZHONG Yijiang	A1	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5187	P.24
	● Surviving Cancer in Asia (ITASIA128)	AKAZA Hideyuki, KAWAHARA Norie	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5188	P.25
	● Japanese Foreign Economic Policy (ITASIA133)	IIDA Keisuke	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5189	P.25
	● 文化・人間情報学特論 I	真鍋祐子	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5190	P.26
特論	● アジア経済論 I	伊藤亜聖・大泉啓一郎	S	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5192	P.26
	● アジア経済論 II	伊藤亜聖・大泉啓一郎	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5193	P.27
	● 中国経済	丸川知雄・伊藤亜聖	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5191	P.27
教養	● 経済発展はどう捉えられてきたか (地域間連関・交流論)	池本幸生	A	https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5194	P.28
	● 地域文化論 I (日本・アジア学概論: 国際社会で活躍する基盤を身に付ける 2019)	ASNET 関連教員	S	https://asnet-utokyo.jp/education/under-graduate	P.31

分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

アジアにおける共生とマイノリティ ～地域文化研究特別講義 II～

Advanced Lecture in Asian Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1329S 31D220-1329S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	後藤絵美 (ASNET)・板橋暁子 (東文研・ASNET) Emi Goto (ASNET), Akiko Itahashi (IASA, ASNET)	場 所 Venue	駒場キャンパス 8号館 205 室 Room 205, Bldg no.8, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 月 (Mon) 2 限 (10:25-12:10)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>本講義では、共生とマイノリティをめぐる多様なあり方を、アジアの諸社会の具体的な事例から検討する。その際、共生を志向するとともにその壁ともなりうる、国籍、民族、性、宗教という四つの柱に注目し、各地域において、それらがどのような状況をつくりだしているのかを見ていく。最終的には、共生という目標を前に、何が重要なのか、そして今後、どのような取り組みが可能であり、必要なのかを考えてみたい。</p>		

第1回	4月 8日	オリエンテーション
第2回	4月 15日	文献講読
第3回	4月 22日	坂元ひろ子 (一橋大学・名誉教授) 「近代中国におけるジェンダー問題から」
第4回	5月 2日 [木]	森山至貴 (早稲田大学・専任講師) 「日本のセクシュアルマイノリティと「新しいホモノーマティヴィティ」」
第5回	5月 13日	文献講読
第6回	5月 20日	後藤絵美 (ASNET・特任准教授) 「日本・アジアにおけるハラール産業と「文化の壁」」
第7回	5月 27日	岡田泰平 (総合文化研究科・准教授) 「フィリピン社会と疎外の諸相」
第8回	6月 10日	文献講読
第9回	6月 17日	鄭栄桓 (明治学院大学・准教授) 「在日朝鮮人の歴史と民族教育」
第10回	6月 24日	前川喜平 (現代教育行政研究会代表) 「民族的マイノリティの学習権」
第11回	7月 1日	受講生報告
第12回	7月 8日	受講生報告
第13回	7月 15日	全体のまとめ

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

アジアのフィールドワーク論 ～地域文化研究特殊研究 III～

Advanced Lecture in Asian Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1355S 31D220-1355S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	後藤絵美 (ASNET)・梅崎昌裕 (医学系研究科) Emi Goto (ASNET), Masahiro Umezaki (Graduate School of Medicine)	場 所 Venue	本郷キャンパス 東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 水 (Wed) 4 限 (14:55-16:40)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>多様な学問分野・対象地域を専門とするアジア研究者や実務者の経験や議論を参照しつつ、フィールドワークについて学ぶ。フィールドワークの方法論として、視点の定め方、対話の技法、データの整理等、具体的な事例を通して学ぶとともに、実践として複数のフィールドワークに挑戦する。</p>		

フィールドワークの作法 [コーディネーター：後藤絵美]		
第1回	4月 10日	イントロダクション
第2回	4月 17日	フィールドに入る (池亀彩・社会人類学 [インド、王権・宗教リーダー] / 東京大学)
第3回	4月 24日	フィールドで過ごす (藏本龍介・文化人類学 [ミャンマー、仏教] / 東京大学)
第4回	4月 27日 [土]	実習 1 日本の中の宗教建築のフィールドワーク (各自)
第5回	5月 8日	実習報告
第6回	5月 15日	日本の中のアジアと宗教建築 (後藤絵美・地域研究 [イスラム圏])
第7回	5月 22日	実習 2 モスク訪問

詳しい情報はこちらで→



フィールドワークの個性 [コーディネーター：梅崎昌裕]		
第8回	6月 5日	未知の言語を話す人々のあいだでのフィールドワーク (田所聖志・社会人類学 / 秋田大学)
第9回	6月 12日	『女に抱かれた鶴』の謎：謎解きはフィールドワークのあとで (卯田宗平・民俗学 / 国立民族学博物館)
第10回	6月 19日	ゴカイを食べて宇宙をみる：テーマと出会うフィールドワーク (古澤拓郎・生態人類学 / 京都大学)
第11回	6月 26日	鳥の目と蜂の目：違う視点で農村をみる (大久保悟・地域生態学 / 農業・食品産業技術総合研究機構)
第12回	7月 3日	フィールドでは『おもしろい』が全てに優先する (梅崎昌裕・国際保健学 / 東京大学)
第13回	7月 10日	まとめ：教員との総合討論

履修上の注意
Notes on Taking the Course

受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。受講者は、田所・卯田・大久保・梅崎・後藤が引率教員として計画する ASNET 平戸・度島スタディーツアー (10月下旬) に優先的に参加することができる。スタディーツアーでは、地域住民、行政職員、首長、研究者と直接対話することにより、日本の過疎地におけるさまざまな挑戦を学び、少子高齢化・人口減少に直面する日本社会の望ましいありかたについて考える。スタディーツアーの参加は任意であり、本講義の単位取得には関係しない。

アジアでがんを生き延びる ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	31M220-1340S 31D220-1340S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	赤座 英之・河原ノリエ（情報学環） Hideyuki Akaza, Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	本郷キャンパス（医学部教育研究棟他） Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 火 (Tue) 5 限 (16:50-18:35)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	冬学期に本授業と連動した授業（ITASIA128 Surviving Cancer in Asia）を開講予定 ※再履修可能

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

がんは現代をうつす鏡です。日本においては、生涯のうち二人に一人がかかる病とされ、アジアにおいても大きな社会課題となっています。がんの臨床研究は飛躍的に進み、AI、ビッグデータ、IoTの恩恵を受けた次世代がん医療への期待が高まっています。本講義では、アジアに向けて何ができるかに視点を置きつつ、ジェロントロジー、地域社会、死生観、生涯教育、健康経営、SDGs、ESG投資、腸内細菌、癌ゲノム、ビッグデータ、AIなど、今日的課題に焦点をあて、それぞれの第一人者の方たちと議論をしたいと思えます。がんという病を通して、今を生きるわたしたちが直面している問題の実像が浮かび上がってくるはずです。

- 第1回 4月16日 がんはアジアの未来に何をもちこたすのか？—Cross-boundary Cancer Studies
- 第2回 4月23日 多死社会を生き延びる—ジェロントロジーからの問題提起
- 第3回 5月14日 がんのエスノグラフィ—質的研究論文をエッセーとよばれないためには？
- 第4回 5月21日 人と人を繋ぐカーマギーズの取り組み事例から学ぶ
- 第5回 5月28日 がんは人を成長させる—自分と対峙する世界に降りていくということ
- 第6回 6月4日 人生100年時代のがん学—社会課題を自分化する
- 第7回 6月11日 がんと健康経営—その商いは未来を祝福しているのだろうか？
- 第8回 6月18日 がんとESG投資—SDGsからの問いかけへの応答
- 第9回 6月25日 がんとUHC—誰も取り残さない世界を目指して
- 第10回 7月2日 食とくらしとサイエンス—腸内細菌とがん
- 第11回 7月9日 がんデータはどのようにしてつくられるのか？—ゲノム医療とがん
- 第12回 7月16日 AIはがん医療をどのように変えようとしているのか？
- 第13回 7月23日 グローバルヘルスとしてのがん医療

講師

辻哲夫	東京大学高齢者社会総合研究機構特任教授
波平恵美子	お茶の水女子大学名誉教授
秋山正子	マギーズ東京 センター長
なかにし礼	直木賞作家・作詞家
牧野篤	東京大学大学院教育学研究科教授
小林文彦	伊藤忠代表取締役専務執行役員
平野宏一	ヤクルト本社常務執行役員
服部幸應	服部学園理事長
増井徹	前慶應義塾大学医学部教授
中金斉	国立がん研究センター理事長
赤座英之	東京大学大学院情報学環特任教授
河原ノリエ	東京大学大学院情報学環特任講師
他	詳細は www.siccn.org

詳しい情報はこちらで→



分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

東南アジア地域研究特論 ～アジア太平洋文化交流論Ⅰ～

Cultural Exchange in Asia and the Pacific Area I

科目番号 Course ID Number	31M220-973S 31D220-973S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	岡田 泰平 Taihei Okada	場 所 Venue	駒場キャンパス 14 号館 605 室 Room 605, Bldg no.14, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 月 (Mon) 5 限 (16:50-18:35)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>大学院授業ですので、次のように考えています。</p> <p>1. 参加者の研究報告</p> <p>2. 東南アジア関係文献の輪読。今年度は古代史から現在までの東南アジア国家論・政治経済論を読むことを予定しています。他地域、歴史学以外のディシプリンに関心のある方も歓迎しますが、東南アジア研究の発表・文献輪読が主です。ヨーロッパ・南北アメリカ・オーストラリアとも他のアジアやアフリカとも大変に異なった地域ですので、得るものは大きいと思いますが、違和感もあろうかと思えます。ディシプリンの的には、基本的には地域研究で、その上に歴史学があるという感じですが、ディシプリンの縛りはきつくありませんが、逆にディシプリンの訓練の場とはあまりありません。</p>
--	---

履修上の注意 Notes on Taking the Course	<p>学部から博士までの縦の授業です。おそらく、後期生 3 名、研究生 2 名、その他ゼミに参加して下さっている修士・博士の院生数名がいます。そのほかに授業として登録する方が若干名と考えています。およそ以下のような構想を持っています。</p> <p>A 博士課程の人 B-1 岡田と制度上の指導関係にある人：博士課程 B-2 岡田と制度上の指導関係にある人：修士課程、学部後期生、研究生 C 学部 3・4 年生、研究生 D 授業登録している人</p>
--------------------------------------	---

B-2、C、D の方は、なるべくゼミに参加するようにしてください。また欠席される時は連絡ください。A・B-1 の方は、ご自身のご研究を優先することで構いません。ただし、こちらでコメントがほしいときにはその回の参加をお願いします。D の方のオプション。文献講読 1 回、自身の研究報告 1 回。

詳しい情報はこちらで→



分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

「野の芸術」論—ヴァナキュラー概念を用いた民俗学的アート研究 ～通文化研究基礎論Ⅱ～

Foundations of Trans-regional Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1141S 31D220-1141S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	菅豊（東洋文化研究所） Yutaka Suga (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 東洋文化研究所 705 室 Room 705, Institute for Advances Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 水 (Wed) 4 限 (14:55-16:40)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>日本の民俗学と世界各国の民俗学とでは、研究ジャンルが非対称である。世界の民俗学では積極的に取り組まれているのに対し、日本の民俗学では十分に取り組まれてこなかった重要な研究ジャンルがある。それが芸術＝アートである（本授業では美術・工芸に加え音楽、演芸、さらに審美性を必ずしも追求しない創作活動なども含めてアートと表現する）。本授業は、現代民俗学のキーワードである「ヴァナキュラー (vernacular)」概念で捉えられるアート、すなわちヴァナキュラー・アートを題材に、民俗学的アート論の方法や理論、具体的事例を検討する。</p>
--	---

履修上の注意 Notes on Taking the Course	初回開講は 4 月 10 日 (水) 4 限 14:55 の予定。授業は本郷キャンパス・東京大学東洋文化研究所 7 階 705 号室で開講する。
--------------------------------------	--

詳しい情報はこちらで→



途上国農村経済論 ～アジア太平洋地域文化演習Ⅲ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1014S 31D220-1014S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	高橋昭雄（東文研） Akio Takahashi (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 東洋文化研究所 606 室 Room 606, Institute for Advances Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	発展途上国の農村社会経済について勉強する。「農業」経済ではなく「農村」社会経済であるので、当然のことながら、農村工業、労働移動、就業構造、都市化、貧困といった問題も含めて演習の課題とする。どのような 이슈に重点をおくかについては参加者と協議のうえ決定する。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	授業のテキストは、ゼミに参加する学生の専攻や意向を参考にして、最初の授業の日に決める。		

詳しい情報はこちらで→



人間環境論Ⅳ Human Geography IV

科目番号 Course ID Number	31M282-0640S 31D282-0640S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	永田淳嗣（総合文化研究科） Junji Nagata (Arts and Sciences)	場 所 Venue	駒場キャンパス 2号館 202 室 Room 202, Bldg no.2, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。		

詳しい情報はこちらで→



朝鮮半島をめぐる政治・国際関係 ～多元世界解析演習Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0141S 31D220-0141S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木宮正史（総合文化研究科） Tadashi Kimiya (Graduate School of Arts and Sciences)	場 所 Venue	駒場キャンパス 8号館 210 室 Room 210, Bldg no.8, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 月 (Mon) 2 限 (10:25-12:10)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	本授業では、韓国現代史における最も重要な人物である朴正熙に焦点を当て、その最先端の研究成果を読み、韓国現代史および朝鮮半島現代史、東アジア現代史に新たな視点を取り入れることを目指す。そのうえで、受講者の関心に沿って、韓国現代史、朝鮮半島現代史、東アジア現代史に関する事例研究を行い、発表してもらおうとも考えている。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	本授業は、大学院法学政治学研究科との合併授業であり、場所は駒場Ⅰキャンパスで行う。		

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

多文化共生・統合人間学演習Ⅲ

科目番号 Course ID Number	31D370-0220S ※修士・博士とも番号は共通	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	園田茂人 (東洋文化研究所) Shigeto Sonoda (IASA)	場 所 Venue	(サマープログラム Summer Program)
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (S2 term)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>This 10-day course explores Japan's postwar period from interdisciplinary and experiential perspectives. Japan's postwar is usually described as four decades of high economic growth followed subsequently by a prolonged recession dubbed "the lost two decades" (1990-present). Japan's postwar, however, points to a far more complicated and ongoing process of social, cultural, and political changes, which this course is set to explore.</p> <p>Students will join fellow participants from overseas universities in a ten-day intensive program of interdisciplinary academic lectures (in humanities and social sciences) and carefully planned field trips in Tokyo and surrounding areas. Through a well-designed schedule of on- and off-campus study, this course urges students to critically understand and analyze socio-cultural, political, and technological issues, such as sustainable urban planning, poverty, and historical memory. These issues are key for understanding not only Japan's postwar itself but also the larger world to which Japan is closely connected and of which Japan is intrinsically a part.</p> <p>By the end of the program, students will have</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. gained a more nuanced understanding of Japan's postwar as a complex and changing society; 2. learned analytical skills with which to analyze social phenomena in Japan and other parts of the world; 3. improved their intercultural communication skills as a result of collaboration in research projects and presentations with fellow students from different countries of the world. 		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	Those who want to join the program should send one 3-page double-spaced essay in English outlining why you are interested in this program and what you want to learn from it to gjs@ioc.u-tokyo.ac.jp by May 1, 2019, other than registering at UTAS. Only those whose application are selected will be able to join the program.		

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位／4 Credit : 4

在外コリアンの歴史と現在 ～アジア太平洋地域文化研究演習Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M290-1007A 31D290-1007A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	外村大 (総合文化研究科) Masaru Tonomura (Arts and Sciences)	場 所 Venue	駒場キャンパス 14 号館 605 教室 Room 605, Bldg no.14, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S / A semester, 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>日本、中国、サハリン、中央アジア、アメリカ等に居住する朝鮮民族については、その形成の歴史や現在の生活、民族文化の継承、その芸術文化、ホスト社会との関係などをめぐる研究が蓄積されている。それらについての理解を深め、今後の研究の展望や人口移動、マイノリティをめぐる普遍的な問題についても議論していく。</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	朝鮮語の文献を扱うこともあるが、朝鮮語理解者のみに受講者を限定するわけではない。ただし、朝鮮語の読解が困難であるが受講を希望する者については事前に教員と連絡をとること。		

詳しい情報はこちらで→



Critical Issues in Southeast Asian Politics, Society and History ～地域文化研究特殊研究Ⅶ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1500A 31D220-1500A	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	トンチャイ・ウニツチャクン（総合文化研究科） Thongchai Winichakul (Art and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A1 term, 水 (Wed) 5 限 (16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	ウェブサイトにてご確認ください (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/5155)		

詳しい情報はこちらで→



書き直される中国近現代史 12 ～国際社会科学特別講義Ⅳ～

Specific Lecture: International Studies IV

科目番号 Course ID Number	31M230-1140A 31D230-1140A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川島 真（総合文化研究科） Shin Kawashima (Arts and Sciences)	場 所 Venue	駒場キャンパス 8号館 210 室（暫定） Room 210, Bldg no.8, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 木 (Thu) 5 限 (16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	この講義は、2019 年度で第 12 回目を迎える。第一年度（2008 年度）は人物評価を、第二年度（2009 年度）は事件・運動を、第三年度（2010 年度）はローカルな空間や社会集団を基軸に講義を組み立て、第四年度（2011 年度）は史料・資料に焦点を当て、第五年度（2012 年度）は主に若手研究者の視線から見た新しい研究動向を扱い、第六年度（2013 年度）は昨今進展著しい戦後東アジア国際政治史、東アジア冷戦史について、第七年度は日中戦争史について多様な角度から検討し、第八年度は「中国史の境界線－異質・多元・包摂－」として中国史の多様な語り方を考察し、第九回は「現代中国理解講座：現代中国への視線－歴史の視座と多様性－」として、政治、法律、行政、外交、経済、社会、思想文化などの多様な面から現代中国を論じ、第十回は「近現代日中関係史：歴史・記憶・展望」として、多様な近現代日中関係史に対する新たな研究についての講義をおこない、第十一回は「近現代中国の秩序観：国家・社会・経済・国際関係」として、これからの中国が構築していくであろう様々な場や分野での秩序について歴史的に考察した。これらの内容は、東京大学現代中国研究拠点（社会科学研究所）ウェブサイトに掲載されている (http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/)。		

今年第十二回目にあたるが、「中国近現代史研究の論争点 - 中国の歴史学、日本・世界の歴史学」として、中国近現代史で論争点について、中国における歴史学の語りと日本を含むそれらの世界での歴史叙述との相違点を意識した講義をおこなう。

授業はさまざまな世代の第一線の研究者によるオムニバス講義とする。

授業時間は木曜日 5 限、評価は出席と学期末のレポートによる。

スケジュールは以下のとおり（テーマはすべて仮題）

- 第 1 回 9 月 26 日 岸本美緒（お茶の水女子大学）「中国近世の地域社会論」
- 第 2 回 10 月 3 日 杉山清彦（東京大学）「モンゴル史・満洲史と中国史とのあいだ」
- 第 3 回 10 月 10 日 濱下武志（東洋文庫）「朝貢貿易論」
- 第 4 回 10 月 17 日 茂木敏夫（東京女子大学）「冊封関係の近代的再編をめぐって」
- 第 5 回 10 月 24 日 渡辺美季（東京大学）「琉球の両属？」
- 第 6 回 10 月 31 日 高見澤磨（東京大学）「中国人は訴訟好きか？」
- 第 7 回 11 月 14 日 孫安石（神奈川大学）「留日学生評価をめぐって」
- 第 8 回 11 月 28 日 村田雄二郎（同志社大学）「戊戌変法と西太后の評価」
- 第 9 回 12 月 5 日 川島真（東京大学）「革命外交とは何だったのか」
- 第 10 回 12 月 12 日 森靖夫（同志社大学）「日中戦争での日本軍による中国軍評価」
- 第 11 回 12 月 19 日 関智英（東洋文庫）「漢奸とはどのような人々か」
- 第 12 回 12 月 26 日 予備日
- 第 13 回 1 月 9 日 中村元哉（東京大学）「中国における憲政と民主」

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

サステナビリティの戦略 II

Sustainability Strategy II

科目番号 Course ID Number	31M290-0180A 31D290-0180A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	永田淳嗣 (総合文化研究科) Junji Nagata (Arts and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester, 月 (Mon) 4 限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。		

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

イスラームとジェンダー ～地域文化研究特殊研究Ⅲ～

Islam and Gender

科目番号 Course ID Number	31M220-1356A 31D220-1356A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	後藤絵美 (ASNET) Emi Goto (ASNET)	場 所 Venue	本郷キャンパス 東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 月 (Mon) 2 限 (10:25-12:10)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	受講生には課題発表を課す回がある。
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>イスラームにおけるジェンダーの問題は、ムスリムが暮らす各地の社会にとっても、個々の人々の日常生活や人生にとっても、重要なものとして議論されてきた。本講義の目的は、それらの議論の具体的な内容について知るとともに、イスラームやムスリムの諸社会への理解を深めることである。</p> <p>前半ではイスラームとジェンダーの関わりを概観する。啓示の書であるクルアーンや、預言者の言行録であるハディースといった「聖典」や、古典から現代までのイスラーム法を取り上げ、その中でジェンダーがどのように問題化してきたのかを検討する。後半では、ジェンダーをめぐる各地の社会で何が議論されてきたのかを具体例を通して眺めていく。</p>		
	第1回	9月30日	イスラームとジェンダー
	第2回	10月7日	聖典とジェンダー (1) 総論
	第3回	10月21日	聖典とジェンダー (2) クルアーンを読む
	第4回	10月28日	聖典とジェンダー (3) ハディースを読む
	第5回	11月7日 [木]	イスラーム法とジェンダー (1) 総論・古典法
	第6回	11月11日	イスラーム法とジェンダー (2) 近代と法の変化
	第7回	11月13日 [水]	イスラーム法とジェンダー (3) 現代法
	第8回	11月18日	現代社会とジェンダー (1) 婚姻
	第9回	12月2日	現代社会とジェンダー (2) 風紀・暴力
	第10回	12月9日	現代社会とジェンダー (3) 装い
	第11回	12月16日	受講生による報告
	第12回	12月23日	受講生による報告
	第13回	1月6日	全体のまとめ

詳しい情報はこちらで→



イスラム美術研究 (1)

科目番号 Course ID Number	21190406	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	栂屋友子（東洋文化研究所） Tomoko Masuya (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 赤門総合研究棟 738 Room 738, Akamon General Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 金 (Fri) 2 限 (10:25-12:10)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	イスラームが主要な宗教であった地域で発達した陶器、ガラス器を概観し、素材、制作技法、装飾技法、装飾図案について地域や時代における特徴を探る。イスラーム美術史全般についての概説、各種工芸品の技法や歴史について学んだ後、個々の作品を検討する。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	ゼミ形式で授業を進め、毎回の授業でリアクション・ペーパーの提出を求めるほか、各自1度はイスラーム工芸品に関して発表する。評価はリアクション・ペーパー、授業への参加状況（発表・発言など）、レポート授業への参加状況（発表・発言など）、レポートによる。		

詳しい情報はこちらで→



イスラム美術研究 (2)

科目番号 Course ID Number	21190407	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	栂屋友子（東洋文化研究所） Tomoko Masuya (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 赤門総合研究棟 738 Room 738, Akamon General Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 金 (Fri) 2 限 (10:25-12:10)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	イスラームが主要な宗教であった地域で発達した金属器、木工品、石工品、テキスタイル、絨毯等を概観し、素材、制作技法、装飾技法、装飾図案について地域や時代における特徴を探る。イスラーム美術史全般についての概説、各種工芸品の技法や歴史について学んだ後、個々の作品を検討する。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	ゼミ形式で授業を進め、毎回の授業でリアクション・ペーパーの提出を求めるほか、各自1度はイスラーム工芸品に関して発表する。評価はリアクション・ペーパー、授業への参加状況（発表・発言など）、レポート授業への参加状況（発表・発言など）、レポートによる。		

詳しい情報はこちらで→



分野 / 社会・文化論 (人文社会系研究科) Field : Society and Culture

単位 / 2 Credit : 2

韓国の社会問題と社会政策 (1)

Social Problems and Policies of South Korea (1)

科目番号 Course ID Number	21196504	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	金 成垣 (人文社会系研究科) Kim Sung Won (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	本郷キャンパス 赤門総合研究棟 723 Room 723, Akamon General Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 金 (Fri) 2 限 (10:25-12:10)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

国際比較とくに日本との比較の視点から、韓国の社会問題と社会政策の歴史と現状および課題について、基礎的な知識と研究方法論を学ぶ。

近年、急進している少子高齢化社会とその背後に家族構造の変化や機能の弱体化、それにとまなう育児や介護、健康や老後所得の問題等々、さまざまな社会問題が私たちの身近なところであらわれている。しかしそれは単に日本だけに限られたものではない。隣国の韓国でも全く同じ問題が発生している。最近よくいわれる非正規雇用やワーキングプア、ブラック企業や過労自殺などとかかわる労働環境の悪化や失業・貧困問題も同様であり、それらの問題の解決のための社会政策の改革も日韓共通の課題となっている。本授業では、日韓比較の視点から韓国の社会問題とその対策としての社会政策の特徴とその意味を検討する。

詳しい情報はこちらで→



分野 / 社会・文化論 (人文社会系研究科) Field : Society and Culture

単位 / 2 Credit : 2

韓国の社会問題と社会政策 (2)

Social Problems and Policies of South Korea (2)

科目番号 Course ID Number	21196505	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	金 成垣 (人文社会系研究科) Kim Sung Won (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	本郷キャンパス 赤門総合研究棟 723 Room 723, Akamon General Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 金 (Fri) 2 限 (10:25-12:10)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

比較福祉国家研究の視点から韓国の特徴と位置づけ、そしてその実践的・理論的意味を学習し、韓国の社会問題と社会政策についての理解を深める。

近年、比較福祉国家研究の分野では韓国に関する研究が盛んになっている。多様な研究が行われるなか、韓国の福祉国家に関しては、日本や西欧諸国の歴史的経験と同一線上でとらえることができず、むしろ「先発」と「後発」という時間軸の視点を比較分析のなかに取り入れることの重要性が指摘されている。遅れて福祉国家化に乗り出した後発国が選択した、あるいは選択せざるを得なかった福祉国家化のパターンを問う、いうならば後発福祉国家論という視点である。本授業においては、この後発福祉国家論の視点にもとづいて、韓国における福祉国家の歴史と現状を検討し、現に韓国が抱えている社会問題とそれを解決するための社会政策との関連で、今後の課題について考える。

詳しい情報はこちらで→



社会基盤イノベーション E

Innovations in Civil Engineering

科目番号 Course ID Number	3713-120	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	小松崎俊作 (工学系研究科) Shunsaku Komatsuzaki (Engineering)	場 所 Venue	本郷キャンパス 工学部 1 号館 17 号室 Room 17, Bldg. 1, Faculty of Engineering, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S1 term, 水 (Wed) 4 限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	事例分析とイノベーションワークショップの実践を通じて、社会的課題に対する解決策立案方法・能力を習得する。冒頭、問題構造化手法とイノベーション教育手法について概説し、事例の分析を行った上で、イノベーションワークショップを実践する。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	本講義では未受験を認めない。成績評価 (出席 30%、ショートレポート 30%、ワークショップへの貢献 40%) で 50 点を切ると不可となるので、注意して履修登録すること。		

詳しい情報はこちらで→



国際プロジェクトのケーススタディ E

Case Studies of International Project

科目番号 Course ID Number	3713-118	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	小松崎俊作 (工学系研究科) Shunsaku Komatsuzaki (Engineering)	場 所 Venue	本郷キャンパス 工学部 1 号館 17 号室 Room 17, Bldg. 1, Faculty of Engineering, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S2 term, 月 (Mon)・木 (Thu) 2 限 (10:25-12:10)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	国際プロジェクトに関わる事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習を通じて、国際プロジェクトに関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。特に、それぞれ専門知識を持った教員の下での学習を行うことによって、各ケースに関わる専門的知識を身につけることも求められる。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	本講義では未受験を認めない。成績評価 (出席 30%、各ケースで出されるショートレポート+議論への貢献 70%) で 50 点を切ると不可となるので、注意して履修登録すること。		

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／2 Credit : 2

アジアの食と農・環境 ～農学国際特論Ⅲ E / 環境政策特別講義 E～

Food, Agriculture and Environment in Asia

科目番号 Course ID Number	3910180	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	荒木徹也（農学生命科学研究科） Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences)	場 所 Venue	弥生キャンパス 農学部 7号館 B棟 7B-231 /232 Lecture Room 231 /232, Faculty of Agriculture Bldg no.7B, Yayoi Campus

授業時間 Semester/Time	<p>通年 集中講義 intensive (S1-W) 年間 5 回の集中講義（土曜日の 10:00-16:00 に実施）</p> <p>第 1 回： 6 月 8 日 Prof. Kwang-Ming Liu（担当：八木信行） 第 2 回： 7 月 13 日 Prof. Khin Mar Htay（担当：溝口勝） 第 3 回： 10 月 26 日 Prof. Khin Mar Htay（担当：溝口勝） 第 4 回： 11 月 30 日 Prof. Khin Mar Htay（担当：溝口勝） 第 5 回： 12 月 14 日 Dr. Yiu Evonne（担当：八木信行）</p>
-----------------------	--

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<ol style="list-style-type: none"> 1. Purpose: To acquire plural viewpoints for tackling the problems of agriculture and environment in accordance with the reality in the local context as well as global viewpoints. 2. Contents: Five intensive lectures will be held. Coordinator: Tetsuya Araki (荒木徹也), Kensuke Okada (岡田謙介), Nobuyuki Yagi (八木信行), Masaru Mizoguchi (溝口勝) 3. Ability to grasp multiple aspects of the problems of agriculture and environment in accordance with the reality in the local context as well as global viewpoints.
--	--

履修上の注意 Notes on Taking the Course	単位取得のためには年間 4 回の出席が最低必要条件である。
--------------------------------------	-------------------------------

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／2 Credit : 2

国際農業と文化ゼミナール

科目番号 Course ID Number	3912143	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	荒木徹也（農学生命科学研究科） Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences)	場 所 Venue	TBA

授業時間 Semester/Time	SP 集中講義 intensive (S) 3日間連続の集中講義（6月12日（水）～14日（金））	履修上の注意 Notes on Taking the Course	出席および総合討論での発言により評価する。
-----------------------	--	--------------------------------------	-----------------------

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>目標：アジアの農業について、さまざまな農学に関わる分野を総合して、「環境と農業」「農業と資源」「経済と食品流通」といった視点から論じる。アジアの農業について、単一の専門分野の知識のみではなく、俯瞰的に考える能力を身につけることを目指す。</p> <p>概要：スライドおよび資料による講義形式。各日の最後に総合討論を行う。</p>
--	---

詳しい情報はこちらで→



国際農業と文化実習

科目番号 Course ID Number	3912144	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	荒木徹也（農学生命科学研究科） Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	S1, SP, A1 集中講義 国内実習が数回（4月から8月、日時は未定）、インドネシアで海外実習が10日間（8月下旬頃を予定しているが日時は未定）		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>目標：国際農業と文化セミナーで得た知識や考え方を実際の現場に適用するために、アジア途上国での研修により、地域における問題の把握、それらの問題解決のためのプロジェクト形成について経験を積む。国内および海外の現場での基礎的な調査能力を身につけることを目指す。</p> <p>概要：日本の農村での実習を、4月から8月（日程未定）におこなったうえで、インドネシアで10日間の海外実習（8月下旬頃を予定しているが日時は未定）を行う。帰国後、レポートを作成し発表会を行う。</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	履修学生の上限を20名とする。海外実習の参加申し込み者に対する事前面接を実施する。		

詳しい情報はこちらで→



サステナビリティ学特論ーアジアの米・稲

Sustainability Science Course - Rice in Asia

科目番号 Course ID Number	3990111	使用言語 Language	使用言語は英語もしくは日本語とする。どちらかを用いるかは参加者の状況を見て決める。 The language used in class will either be English or Japanese, depending on the participants' language abilities.
担当教員 Teacher	鴨下頭彦（アジア生物資源環境研究センター） Akihiko Kamoshita (ANESC)	場 所 Venue	西東京キャンパス（本館会議室）・弥生キャンパス（7号館B棟435室） Nishitokyo campus (Meeting room, Main Building), Yayoi campus (7B-435) ※変更の可能性あり (Subject to Change)
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (A1-SP) 10月3日・10日・17日・24日・31日（予定）		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>日本とアジアで最も身近な生物資源の1つである「米・稲」を通して、持続可能な開発の姿を明らかにすることを目標とする。講義、ビデオの視聴、参加型演習、食料農業統計データベースの活用により、(1) 世界の多様な稲生態系と生産現場を概観し、(2) 食料問題や作物生産に関する基礎知識を学び、(3) サステナビリティ、レジリエンス、平和構築、ステークホルダー、無知の壁などの概念について理解を深める。さらに、(4) 多様な社会の構成員がどのように食料生産技術を選択するのか、また先進的な科学知識をどのように技術に繋げるのか、主体的に考える。「米・稲」の多面的な知識を得て、アジアの稲作現場への視野を広げられ、持続可能な開発とそのために必要な技術について分析する基礎的な能力を身に付けられる。</p> <p>The course aims to clarify images of sustainable development through rice, one of the most popular biological resources in Japan and Asia. Through lecture, video, participatory practices, and exercise of food and agricultural statistical database, (1) overviews of diversity of rice ecosystems and fields of production, (2) basic knowledge of food problem and crop production, and (3) key concepts of sustainability, resilience, peace-making, stakeholder, veil of ignorance, are presented. Students actively learn how to choose food production technologies by diverse members of society and how to link most advanced knowledge of natural sciences with technologies. Students will acquire knowledge of various aspects of rice, broader views toward rice farming fields in Asia, and basic ability to analyze sustainable development and necessary technologies.</p> <p>ユニット1 米・稲を学ぶー専門分野とサステナビリティアプローチ、統計データベース ユニット2 緑の革命と持続可能な開発ー人口と食料、生態系、収量と遺伝・環境・管理 ユニット3 ステークホルダー解析と技術の開発・選択ー灌漑開発、参加型技術開発・普及 ユニット4 遺伝子組み換え作物とゲノム編集技術ーセラリーニ事件、規制 ユニット5 多様な作物生産技術ーストレス抵抗性の改良、気候変化への適応策と緩和策、革新的アグロノミー技術、種子生産技術 ユニット6 平和構築と稲</p> <p>Unit 1 Learning of rice - discipline and sustainability approach, statistical database for production and trade Unit 2 Green revolution and sustainable development - population and food, ecosystems, yield and gene-environment-management Unit 3 Stakeholder analysis and technology development & choices - irrigation development, participatory technology development and dissemination Unit 4 Genetically modified crops and genome editing technology - Seralini affair, regulation Unit 5 Various crop production technologies - improvement of crop stress resistance, adaptation and mitigation to climate change, innovative agronomy, seed multiplication Unit 6 Peace-making and rice</p>		

履修上の注意
Notes on Taking the Course

UTAS に履修希望登録し、事前テストをダウンロードして、第1回講義までに回答を、akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp へ送ること。
Register to take the course in UTAS, download pre-test and e-mail your answers to akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp before the first lecture.

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／各 1 Credit : 1 per term

農業から見たアジア史 ～農業史特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ～

History of Agriculture I, II, III, IV

科目番号 Course ID Number	3905188 3905189 3905190 3905191	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	松本武祝、戸石七生（農学生命科学研究科） Takenori Matsumoto, Nanami Toishi (Agricultural and Life Sciences)	場 所 Venue	弥生キャンパス 農学部 1 号館 309-1 Faculty of Agriculture Bldg 1, 309-1, Yayoi Campus
授業時間 Semester/Time	S1, SP, A1, A2 金 (Fri) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	日本・インドを中心としたアジアの歴史を、農業を尺度に長期的な視野から理解することを目的とする。その際、比較史的アプローチを用いる。 S セメスターは小川道大『帝国後のインド－近世的発展のなかの植民地化－』（名古屋大学出版会、2019 年 2 月末発売予定）を輪読する。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	履修の際の専門性は問わないが、日本史や世界史一般については高校の教科書程度の知識があることを前提とする。また、農業経済学や農業史の基礎的なテキスト（荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学』岩波書店、原田信男『日本人はなにを食べてきたか』角川書店）を予習しておくことを薦める。		

詳しい情報はこちらで➡



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／各 1 Credit : 1 per term

連帯経済とソーシャル・ビジネス ～汎アジア経済論Ⅲ、Ⅳ～

Solidarity Economy and Social Business

科目番号 Course ID Number	3905523 3905524	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東文研） Yukio Ikemoto (IASA)	場 所 Venue	弥生キャンパス 農学部 1 号館 第 10 講義室 Faculty of Agriculture Bldg 1, Lecture Room No.10, Yayoi Campus 変更の可能性あり
授業時間 Semester/Time	A1, A2 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	より良い社会を築いていくために、われわれはもっと互いのことをよく知り、相手の立場も理解し、アダム・スミスのいう「公平な観察者」の立場に立って議論していかなければならない。このことをアマルティア・センは『正義のアイデア』の中で主張しているように思われる。このアイデアを生かすひとつの方法は連帯経済である。われわれの周りには、有機農業を始めとして、そのような連帯を生かした活動が様々な形で存在する。本講義では、グラミン銀行や有機農業などの事例を取り上げ、それが、経済学で想定するような利己的な個人からなる経済とどのように異なるかを考えていく。		

In order to make our society better, we need to know more about each other and discuss with each other from the viewpoint of the impartial observer in the sense of Adam Smith. This seems to be the essence of Amartya Sen's book titled "Idea of Justice." A way in this direction is the Solidarity Economy. In fact, there are many activities of this kind around us such as the movement of organic farming. We will take up some of the solidarity economies such as Grameen Bank, organic farming, etc. and discuss how they are different from the models of microeconomics composed of selfish people.

詳しい情報はこちらで➡



国際地域保健学特論 I

Special Lecture in Community Health I

科目番号 Course ID Number	41922121	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	神馬征峰（医学系研究科） Masamine Jimba (Medicine)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部 3 号館 S102 (変更の可能性あり) S102, Medical Building 3, Hongo Campus (Subject to change)
授業時間 Semester/Time	S1 term, 金 (Fri) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>本特論では、参加者はコミュニティに着目したグローバルヘルスの基礎となる重要な概念を理解した後に、研究および実践における方法論について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Key concepts of community health action <ol style="list-style-type: none"> 1-a. Health, community, and global health 1-b. Community development and sustainability 1-c. Primary health care 1-d. Health promotion 1-e. Human rights 1-f. Health behaviors 2. Methods and tools for community health action and research <ol style="list-style-type: none"> 2-a. Community-Based Participatory Research 2-b. Medical anthropology 2-c. Qualitative research method 2-d. Hard-to-reach population research method 2-e. Research integrity 2-f. Mixed method and ethnography 2-g. Implementation research
--	---

詳しい情報はこちらで→



履修上の注意
Notes on Taking the
Course

授業開始日は 4 月 5 日（金）
受講希望者は事前に柴沼助教 shibanuma@m.u-tokyo.ac.jp へ連絡して下さい。

人類生態学特論 I

Human Ecology I

科目番号 Course ID Number	41922231	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	梅崎昌裕・小西祥子（医学系研究科） Masahiro Umezaki, Shoko Konishi (Medicine)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部 3 号館別棟 E604 (変更の可能性有り) E604, Medical Building 3 Annex, Hongo Campus (Subject to Change)
授業時間 Semester/Time	S1 term, 金 (Fri) 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>The primary goal of Human Ecology is to describe the interactions between human populations and their environments, and analyze them in terms of adaptation.</p> <p>April 19 Orientation (10:00-12:00) Prof Umezaki and Dr Konishi April 26 Lecture (9:00-12:00) Prof Umezaki "Anthropological Perspectives on Health and Disease" April 27 Lecture (9:00-12:00) Prof Umezaki "Diet and Nutrition in Health and Disease" May 10 Lecture (9:00-12:00) Prof Umezaki "Child Growth and Health", "Aging" May 17 Lecture (9:00-12:00) Prof Junko Kitanaka "Medical Anthropology" May 24 Lecture (9:00-12:00) Dr Konishi "Environmental Health and Human Ecology" May 31 No Lecture June 7 Special Lecture (9:00-12:00) Prof Kazuhiro Moji (Nagasaki Univ.) "Human Ecology, Ecohealth and Global Health"</p>
--	--

詳しい情報はこちらで→



履修上の注意
Notes on Taking the
Course

The lecture will start at 10:00 on April 13 in the seminar room of Human Ecology, the 6th floor of Medical Building 3 Annex, Hongo campus

医療コミュニケーション学講義

Health Communication Lecture

科目番号 Course ID Number	41918120	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木内貴弘、奥原剛 ほか Kiuchi Takahiro (Medicine), Tsu Yoshi Okuhara (Medicine) and others	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S1 term, 火 (Tue) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション (ヘルスコミュニケーション) の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学 (ヘルスコミュニケーション学) とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1) コミュニケーションの基本的な理論、(2) コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3) コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>
--	--

授業の方法

- ・ 各回 1 テーマの講義を行う。
- ・ テーマに基づいた追加資料の配布やグループワークを行うことがある。

4月 9日 3限	医療コミュニケーション学概論	木内貴弘
4月 9日 4限	ヘルスコミュニケーションの研究 コミュニケーションの分析方法と実証研究	奥原剛
4月 16日 3限	患者・市民の教育 賢い患者・市民を育てる取り組み	山口育子 (COML)
4月 16日 4限	グループ・組織のコミュニケーション 多職種連携とリーダーシップ	石川ひろの (帝京大学)
4月 23日 3限	政策形成とアドボカシーのコミュニケーション アドボカシーの概念と人材育成	神馬征峰 (国際地域保健学)
4月 23日 4限	ヘルスコミュニケーションの方略① 集団の行動変容を促すコミュニケーション	石川善樹 (キャンサースキャン)
5月 7日 3限	ヘルスコミュニケーションの方略② エンターテイメント・エデュケーション	加藤美生 (帝京大学)
5月 7日 4限	ヘルスコミュニケーションの方略③ 医療のビジュアルコミュニケーション	原木万紀子 (立命館大学)
5月 14日 3限	メディアコミュニケーション①: テレビ	市川衛 (NHK)
5月 14日 4限	メディアコミュニケーション②: 新聞	本田麻由美 (読売新聞)
5月 21日 3限	ヘルスコミュニケーションの方略④ 外国人患者とのコミュニケーション	大野直子 (順天堂大学)
5月 21日 4限	ヘルスコミュニケーションの方略⑤ 個人の行動変容を促すコミュニケーション	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
5月 28日 3限	メディアコミュニケーション③: インターネット	中山和弘 (聖路加国際大学)
5月 28日 4限	まとめ: グループ討論と総合討論	木内貴弘、奥原剛、上野治香

履修上の注意 Notes on Taking the Course

医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学、等と関連する。

詳しい情報はこちらで→



医療コミュニケーション学演習

Health Communication Practice Training

科目番号 Course ID Number	41918122	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木内貴弘、奥原剛 ほか Kiuchi Takahiro (Medicine), Tsuyoshi Okuhara (Medicine) and others	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S2 term, 水 (Wed) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	効果的な医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的に取り上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。
--	--

授業の方法

- ・ 各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。
- ・ 演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。

月 日	内 容	担 当
6月 5日 (水) 13:00-16:40	ヘルスライティング (1) 患者・家族を支援する説明文書を作る 注意：ノート PC 持参のこと	高山智子 (がんコミュニケーション学)
6月 12日 (水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 演習 (1)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
6月 19日 (水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習 (2)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
6月 26日 (水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習 (3)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
7月 3日 (水) 13:00-16:40	行動変容を支援するスキル コーチング演習	田口智博 (藤田医科大学)
7月 10日 (水) 13:00-16:40	メディア報道のあり方を考える メディアドクター演習	渡邊清高 (帝京大学)
7月 17日 (水) 13:00-16:40	ヘルスライティング (2) 市民の行動変容を促す保健医療文書を作る 注意：ノート PC 持参のこと	奥原剛
7月 24日 (水) 13:00-16:40	ヘルスライティング (3) 発表会・総合討論 注意：ノート PC 持参のこと	木内貴弘、奥原剛、 高山智子、上野治香

履修上の注意
Notes on Taking the
Course

「医療コミュニケーション学」講義の受講は前提としないが、受講していることが望ましい。MBTI 演習については原則として聴講を認めない。

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

精神保健学特論 I

Mental Health I

科目番号 Course ID Number	41921121 41918211	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川上憲人・西大輔（医学系研究科） Norito Kawakami, Daisuke Nishi (Medicine)	場 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 火 (Tue) 5 限 (16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究（ケーススタディ）を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>4月 9日 オリエンテーション・総論（川上憲人） 4月 16日 精神疾患の疫学（西大輔） 4月 23日 精神健康とその評価（西大輔） 4月 30日 （祝日） 5月 7日 精神保健サービスの利用（西大輔） 5月 14日 ト라우マと災害精神保健（西大輔、宮本有紀） 5月 21日 認知行動療法に基づいたアプローチ（今村幸太郎） 5月 28日 生活習慣に基づいたアプローチ（西大輔、渡辺和広） 6月 4日 課題発表 1 科学的根拠に基づく精神保健対策（学生による発表） 6月 11日 自殺予防対策はどう進めるか（外部講師） 6月 18日 認知症在宅ケアの質を改善する（外部講師） 6月 25日 薬物使用は犯罪か病気か（外部講師） 7月 2日 発表準備（学生による自習） 7月 9日 課題発表 2 科学的根拠に基づく精神保健対策を立案する（5, 6 限）※</p>		

履修上の注意
Notes on Taking the Course

※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。
講義を担当する教員は川上憲人、西大輔、宮本有紀、今村幸太郎、渡辺和広、外部講師

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

精神保健学特論 II

Mental Health II

科目番号 Course ID Number	41921122 41918212	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川上憲人（医学系研究科） Norito Kawakami (Medicine)	場 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 火 (Tue) 5 限 (16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術（制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策、等）を体系的に理解し説明できる、および産業精神保健の現場で具体的な対策を提案・推進ができるし、パブリックヘルス・マインドを持って産業精神保健を実践できる能力を養成する。</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学特論 I」を受講していることが望ましい。		

詳しい情報はこちらで→



健康社会学


Health Sociology

科目番号 Course ID Number	41918214	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	橋本英樹（医学系研究科） Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A1 term, 金 (Fri) 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)		

授業の目標・概要
Course Objectives/Overview

社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。
Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame. Specific focus will be put on themes such as social stratification and health, health impacts of built environment and social environment, medicalization and clinical gaze, and sociology of body/embodiment.

- 第 1 回 9 月 27 日 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本)
- 第 2 回 9 月 27 日 2 限 Social stratification and socioeconomic status (橋本)
- 第 3 回 10 月 4 日 1 限 Social stratification and health (橋本)
- 第 4 回 10 月 4 日 2 限 Social relationship and health (杉澤)
- 第 5 回 10 月 11 日 1 限 Sociology of community applied to health (高木)
- 第 6 回 10 月 11 日 2 限 Social network analysis (高木)
- 第 7 回 10 月 18 日 1 限 Lay perspective of health and disease/ Illness behavior (橋本)
- 第 8 回 10 月 18 日 2 限 Complementary/alternative healthcare (中山)
- 10 月 25 日 公衆衛生学会のため休講
- 第 9 回 11 月 1 日 1 限 Chronic illness and stigma (加藤)
- 第 10 回 11 月 1 日 2 限 Sociology of chronic illness (加藤・橋本)
- 第 11 回 11 月 8 日 1 限 World of medicine; archeological perspective (橋本)
- 第 12 回 11 月 8 日 2 限 World of chronically ill; phenomenological view (橋本)
- 第 13 回 11 月 15 日 1 限 Body sociology and embodiment (橋本)
- 第 14 回 11 月 15 日 2 限 open discussion

詳しい情報はこちらで➡ 

履修上の注意
Notes on Taking the Course

積極的発言・参加を高く評価する。講義中以外（休み時間）の質問は原則受け付けない。

健康教育学


Health Education

科目番号 Course ID Number	41918213	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	橋本英樹（医学系研究科） Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A2 term, 金 (Fri) 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)		

授業の目標・概要
Course Objectives/Overview

生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。
This lecture course will provide a quick review of behavioral theories related to health intervention, by applying them to case scenarios. Then, invited lecturers will provide "real world practice" examples for health promotion, with emphasis on marketing, empowerment approach, media message design, and community building. Each frame of theories will be critically discussed for their strength and weakness to help integration of existing frames to facilitate effective health promotion in the community/workplaces.

- 第 1 回 11 月 22 日 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science (橋本)
- 第 2 回 11 月 22 日 2 限 Micro-meso level theories of behavioral science applied (橋本)
- 第 3 回 11 月 29 日 1 限 Macro level theories of community organization (橋本)
- 第 4 回 11 月 29 日 2 限 Macro level theories of community organization applied (橋本)
- 第 5 回 12 月 6 日 1 限 Empowerment approach in community I (岩永)
- 第 6 回 12 月 6 日 2 限 Empowerment approach in community II (岩永)
- 第 7 回 12 月 13 日 1 限 Public message design for health promotion I (林)
- 第 8 回 12 月 13 日 2 限 Public message design for health promotion II (林)
- 第 9 回 12 月 20 日 1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎)
- 第 10 回 12 月 20 日 2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎)
- 第 11 回 1 月 17 日 1 限 Social marketing through social network intervention (鎌田)
- 第 12 回 1 月 17 日 2 限 Public intervention for community health (馬場)
- 第 13 回 1 月 24 日 1 限 Decision making and behavior (橋本)
- 第 14 回 1 月 24 日 2 限 Wrap-up discussion (橋本)

詳しい情報はこちらで➡ 

履修上の注意
Notes on Taking the Course

積極的発言・参加を高く評価する。講義中以外（休み時間）の質問は原則受け付けない。

分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 124:

International Conflict Study

科目番号 Course ID Number	4971240	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	藤原帰一 (法学政治学研究科) Kiichi Fujiwara (Law and Politics)	場 所 Venue	本郷キャンパス 法文 1 号館 3 階・第 26 番教室 Room 26, 3rd floor, Faculty of Law and Letters Bldg.1., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester, 水 (Wed) 1 限 (8:30-10:15)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	Please be advised that the course, including the final examination, will be given in English.
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>What is an international conflict? Will it be possible to discuss the origins of international conflicts in more general and abstract ways, or would it be the case that each conflicts are so distinct in nature that rule out theoretical abstraction? Those are the basic topics that I aim to cover in this course.</p> <p>International conflicts encompass a wide terrain; here I will focus on what has come to be called the new kind of wars, those in which cultural symbols and identity play out in the development of violent conflicts, as opposed to the more traditional kind of warfare based on the acquisition of secular interests.</p>		

1. Orientation
2. The End of the Cold War and International Conflicts
3. The Security Dilemma Revisited
4. Why go to war?
5. New Wars and Old Wars
6. Ethnicity, Religion, and National Identities
7. Failed States
8. Does Intervention Work?
9. The Constructivist Challenge
10. Interdependence and International Conflicts
11. Is Democracy the Answer?
12. In Search of International Institutions
13. Conditions for Peace

詳しい情報はこちらで➡



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 101:

Introduction to Asian Studies: History and International Relations

科目番号 Course ID Number	4971010	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	青山和佳、池亀彩、松田康博、佐橋亮、鍾以江 (東文研) Waka Aoyama, Aya Ikegami, Yasuhiro Matsuda, Ryo Sahashi, and Yijiang Zhong (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 東洋文化研究所三階大会議室 Main Meeting Room, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A1 term, 火・金 (Tue & Fri) 5 限 (16:50-18:35)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>This course will offer students a series of lectures on Asian history and international relations with the aim of providing a solid foundation in the central topics and most recent scholarship in Asian Studies. This course is required by both M.A.S. and Ph.D. students in the ITASIA program (non-ITASIA students are also invited) and it aims to expand students' knowledge beyond a few specialized countries or areas in Asia by providing a broader perspective of Asia as a whole. Another objective of the course is to offer a better understanding of Asian societies through the study of history. All ITASIA students are also required to concurrently enroll in ITASIA 102 (Seminar on Introduction to Asian Studies: History and International Relations). Students should complete the assigned reading assignments before the respective lectures.</p>		

1. Introduction
2. Comparative Politics in Asia: Authoritarianism
3. South Asia under Colonialism
4. South-East Asia under Colonialism
5. China-Centered World Order and Decline of the Qing Dynasty
6. The Meiji Restoration
7. Korean Peninsula and Taiwan under Japanese Rule and the Birth of the Divided Nations
8. Decolonization of South Asia
9. Rise, Fall and Reconstruction of Japan
10. Decolonization of South-East Asia
11. ROC Era and Establishment of the PRC
12. International Relations during the Cold War
13. International Relations after the Cold War
14. Final Exam

詳しい情報はこちらで➡



履修上の注意
Notes on Taking the Course

Course Text and Reading Materials:

1. Rhoads Murphey, A History of Asia, International Edition (New York: Pearson, 2008)
 2. Warren I. Cohen, East Asia at the Center (New York: Columbia University Press, 2000)
 3. Crispin Bates, Subalterns and Raj: South Asia since 1600 (London & New York: Routledge 2007)
 4. Anthony Reid, A History of Southeast Asia: Critical Crossroads (Malden, Oxford and Chichester: Wiley Blackwell, 2015)
- Students can borrow the required textbooks 1 and 2 from the Interfaculty Initiative in Information Studies Library (iii Library), or Graduate School of Interdisciplinary Information Studies Library <<http://www.lib.iii.u-tokyo.ac.jp/index-e.html>>, for the entire semester. Syllabus, instructions for take home exams, and PDF files of chapters in the textbooks 3 and 4 et al. can be downloaded at ITC-LMS.



Information, Technology, and Society in Asia 128:

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	4971280	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	赤座英之、河原ノリエ（情報学環） Hideyuki Akaza, Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	本郷キャンパス 医学部教育研究棟2階 第1セミナー 1st Seminar Room, 2nd Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 火 (Tue) 5 限 (16:50-18:35)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	夏学期に連動した授業（アジアでがんを生き延びる）を開講
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	Positioning and Aims of the Course This lecture course is multidisciplinary and aims to bring together students from various fields to learn about an issue that has tended previously to only be perceived from a specialist angle. By providing students with the opportunity to learn about matters outside their own area of specialization, the course aims to also provide an opportunity for students to relativize their own studies.		

The field of cancer is one that has a high degree of specialization and it has not necessarily interacted well or been open to collaboration with other fields of study to date. This course aims to support the development of the next generation of experts who are adept at working in interdisciplinary environments and will be the driving force behind research in their various fields, based on the recognition that the role of a modern university is to create innovation in response to social issues.

www.siccn.org

詳しい情報はこちらで→



Information, Technology, and Society in Asia 133:

Japanese Foreign Economic Policy

科目番号 Course ID Number	4971330	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	飯田敬輔（法学政治学研究科） Keisuke Iida (Law and Politics)	場 所 Venue	本郷キャンパス 法文 1 号館 B1 演習室 Seminar Room B1, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 水 (Wed) 4, 5 限 (14:55-16:40, 16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	The goal of this course is to explain how Japan's foreign economic policy is made and where its characteristics come from. This course is primarily intended for international students wanting to understand the political and economic underpinnings of Japan's foreign economic policy, but it will be also useful for students who anticipate practicing foreign economic policy in their professional life, or those who will help shape governmental foreign economic policy in the private sector.		

- Week 1: Introduction
- Week 2: IPE Theory
- Week 3: Theory of Japanese Foreign Economic Policy
- Week 4: History
- Week 5: Trade 1
- Week 6: Trade 2
- Week 7: Investment
- Week 8: Development
- Week 9: Environment
- Week 10: US-Japan
- Week 11: Asia
- Week 12: Europe
- Week 13: Simulation

履修上の注意 Notes on Taking the Course High proficiency in spoken and written English is required.

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

文化・人間情報学特論 I

Special Seminars in Cultural and Human Information I

科目番号 Course ID Number	4917030	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	真鍋祐子 (東洋文化研究所) Yuko Manabe (IASA)	場 所 Venue	本郷キャンパス 情報学環本館 7 階演習室 1
授業時間 Semester/Time	A semester, 金 (Fri) 2 限 (10:25-12:10)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>2016 年度より継続中の「地域社会、トラウマ、レジリエンス、植民地主義」などをキーワードとした授業を、今年度も実施する。沖縄で戦時性トラウマの診療と、福島県相馬市で被災者のトラウマ治療にあたっておられる蟻塚亮二医師 (メンタルクリニックなごみ・院長) を外部講師に迎え、地域特有の歴史的、政治的、文化的な文脈を踏まえた精神医療の現場について学び、そこに人文系研究がいかにかに連携できるかを考える。</p> <p>2016 年度は宗教人類学、17 年度は植民地主義、18 年度は文化復興の観点から、実際に沖縄と福島で行われているトラウマ治療の臨床事例をとらえた。今年度も引き続き、主に文化復興の視点からレジリエンスを論じている宗教学の黒崎浩行教授 (國學院大學) より、レジリエンスの理論と実践についてご講義いただく。</p> <p>蟻塚先生、黒崎先生ともに東日本大震災以降、継続的に特定の地域社会に密着して、トラウマとレジリエンスの関係について観察を続けており、授業を通してその現在進行形の実践に同伴させていただくかたちで、戦争・災害を歴史的連続性の中で内面的にとらえる視座を探ることとしたい。</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	本授業は沖縄、福島がおかれた現状をめぐり、政局を論じることを目的としません。本シラバスに記した「授業の目標」を逸脱した議論に対しては、出席、レポート、討論参加を満たしていても、一切評価の対象とはなりません。		

詳しい情報はこちらで→



分野／特論 Field : Advanced Studies

単位／2 Credit : 2

アジア経済論 I

Asian Economy I

科目番号 Course ID Number	291317	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	伊藤亜聖 (社会科学研究所) Asei Ito (ISS) 大泉啓一郎 (亜細亜大学) Keiichiro Oizumi (Asia University)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	S semester, 木 (Thu) 4 限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>アジア経済の新論点を幅広く理解し、議論する力を養う。具体的にはまず近刊の書籍を読んだうえで、近年 (およそ 3 年以内) に国際機関等から発行された英文の論文や報告書を読み、議論する。担当を決めて内容を報告することで、読解力および批判力を養う。また個人研究の発表も求める。春学期は地域横断で生じつつある大きな変化を、秋学期はより個別的な論点を取り扱う。</p>		

詳しい情報はこちらで→



アジア経済論 II

Asian Economy II

科目番号 Course ID Number	291317-01	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	伊藤亜聖（社会科学研究所） Asei Ito (ISS) 大泉啓一郎（亜細亜大学） Keiichiro Oizumi (Asia University)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester, 木（Thu）4限（14:55-16:40）		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	アジア経済の新論点を幅広く理解し、議論する力を養う。具体的にはまず近刊の書籍を読んだうえで、近年（およそ3年以内）に国際機関等から刊行された英文の論文や報告書を読み、議論する。担当を決めて内容を報告することで、読解力および批判力を養う。また個人研究の発表も求める。春学期は地域横断で生じつつある大きな変化を、秋学期はより個別的な論点を取り扱う。		

詳しい情報はこちらで→



中国経済

Chinese Economy

科目番号 Course ID Number	291318	使用言語 Language	日本語、英語 Japanese, English
担当教員 Teacher	丸川知雄・伊藤 亜聖（社会科学研究所） Tomoo Marukawa, Asei Ito (ISS)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester, 水（Wed）4限（14:55-16:40）		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>この授業では現代の中国経済の基本を学ぶことを目的とする。取り上げるテーマは経済成長、経済体制と改革、労働市場、財政と金融、技術、国有企業、貿易と直接投資、民間企業と産業集積である。</p> <p>The purpose of this course is to learn the basics of Chinese economy. The topics that will be dealt with in this course are: economic growth, economic system and reform, labor market, public finance and banking, technology, state-owned enterprises, foreign trade and direct investment, private firms and industrial agglomeration.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 導入 2. Long-term economic development 長期的な経済発展の展望 3. Planned economy and market economy 計画経済と市場経済 4. Labor market 労働市場 5. Public finance and banking 財政と金融 6. Technology 技術 7. State-owned enterprises and industrial policy 国有企業と産業政策 8. Trade and foreign direct investment 貿易と直接投資 9. Private firms and industrial agglomeration 民間企業と産業集積 		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	使用言語は日本語もしくは英語とする。どちらかを用いるかは参加者の状況を見て決める。 The language used in class will either be English or Japanese, depending on the participants' language abilities.		

詳しい情報はこちらで→



分野／特論 Field : Advanced Studies

単位／2 Credit : 2

経済発展はどう捉えられてきたか（地域間連関・交流論）

Asian network

科目番号 Course ID Number	47190-09	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東文研） Yukio Ikemoto (IASA)	場 Venue	弥生キャンパス 農学部 1号館 第10講義室 Faculty of Agriculture Bldg.1 Lecture Room No.10, Yayoi Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 火 (Tue) 3限 (13:00-14:45)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>開発経済学の基礎には常に「Development（開発、発展）とは何か」という哲学的問いがなければならない。発展とは「所得やGDPが増大すること」と考えがちであるが、所得は「何かをするための手段」に過ぎない。手段が目的化すれば、われわれの真の目的との間にズレが生じ、間違った方向に導かれていく。金銭的に豊かになったとしても、真の意味での生活の豊かさは失われるということも起こりうる。</p> <p>開発の本当の目的は、人々の暮らしが良くなることであり、それを考えるために、人々の暮らしの豊かさをどう表現し、捉えるかが重要になる。それを理論的に提示したのが、アマルティア・センのケイパビリティ（潜在能力）アプローチであり、その考え方は「人間開発 Human Development」として広く知られるようになった。</p> <p>本講義では、このような開発概念の変遷に焦点を合わせて、経済発展論・経済成長論・経済開発論として論じられてきたものをアダム・スミスの時代にまで遡って経済学説史的に振り返り、ケイパビリティ・アプローチに至るまでの開発経済学の流れについて学ぶ。</p>
--	--

詳しい情報はこちらで→



注意①：正規課程とプログラム履修の関係について

NOTE 1 : Standard curriculum and taking part in the program

本プログラムの修了は正規課程の修了とは独立に認定します。したがって、本プログラムにおいて「他研究科（教育部）履修」、「学部科目履修」として取得した単位を、所属する研究科・教育部が正規課程の単位としてどのように取り扱うかは、当該研究科・教育部が決定します。

Recognition of completion of the program is independent of that for completion of the standard curriculum. Therefore, decisions regarding treatment as credit of units gained in this program from “Other graduate school (educational department) enrolment” or “Undergraduate course enrolment” vis-a-vis the standard curriculum of the graduate school or faculty to which the student belongs shall be determined by that graduate school or faculty.

注意②：修士課程から博士課程に進学した時の扱い

NOTE 2 : Treatment of credits when moving from a master's to a doctoral program

修士課程または博士課程在学中に12単位を修得した場合だけでなく、東京大学の修士課程から博士課程へ進学した学生は、両課程を通して12単位を取得することで修了と認定されます。ただし、東京大学の学部において言語科目群に該当する単位を取得して、大学院に進学した場合においては、学部在籍中に取得した単位を本プログラムの単位とみなすことは出来ません。

For students who gained 12 credits during the term of a master's or doctoral program, or for students at the University of Tokyo who have moved from a master's to a doctoral program, recognition of completion shall be given for 12 credits gained during both courses. However, for students who gained credits for language-related courses at a University of Tokyo undergraduate faculty and moved on to the graduate level, the credits gained by such students while enrolled in that department may not be used as credits in this program.

注意③：平成18年度～20年度の「日本・アジア学講座」との関係

NOTE 3 : Regarding 2006 ~ 2008 Lectures on Japan-Asian Studies

平成18年度～20年度の期間に「日本・アジア学講座」として開講された科目のうち、作業委員会が特別に認めた場合には修了要件の単位とすることができます。

If the Managing Committee gives special permission, credits gained from those subjects taught during the Japan-Asian Studies Lectures held between 2006 and 2008 may be counted as credits.

言語科目群

Asian Language Courses

事前に必ず、履修に当たっての注意（履修者の制限など）を、ウェブサイトならびに UTAS 上で確認してください。
 どちらのキャンパス（本郷・駒場）の科目でも履修可能ですが、学部学生の履修状況によっては、受講できない場合もあります。

For detailed information in English, please visit the UTAS website.

本郷キャンパス【文学部開講科目】

Hongo Campus (Faculty of Letters)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
中国語前期 I	04195601	張 佩茹	S1+S2	2	アラビア語 I	04195642	榮谷 温子	S1+S2	2
中国語前期 II	04195602	張 佩茹	A1+A2	2	アラビア語 II	04195643	榮谷 温子	A1+A2	2
中国語後期 I	04195603	張 佩茹	S1+S2	2	ペルシア語 I	04195644	渡部 良子	S1+S2	2
中国語後期 II	04195604	張 佩茹	A1+A2	2	ペルシア語 II	04195645	渡部 良子	A1+A2	2
ヒンディー語 I	04195637	橋本 泰元	S1+S2	2	チベット語 I	04195652	星 泉	S1+S2	2
ヒンディー語 II	04195638	橋本 泰元	A1+A2	2	チベット語 II	04195653	西沢 史仁	A1+A2	2
韓国朝鮮語初級 I	04195639	五十嵐 孔一	S1+S2	2	中国語後期 III (教養学部と共通)	04195656	李 彦銘	集中	2
韓国朝鮮語初級 II	04195640	五十嵐 孔一	A1+A2	2	中国語後期 IV (教養学部と共通)	04195657	李 彦銘	集中	2
韓国朝鮮語中級	04195641	五十嵐 孔一	S1+S2	2					

駒場キャンパス【教養学部開講科目】

Komaba Campus (College of Arts and Sciences)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通中国語 (19) (会話)	08A4019	姚 毅	S1S2	2	共通中国語 (37) (初級)	08A4037	張 玉萍	S1S2	2
共通中国語 (20) (作文)	08A4020	柴 森	S1S2	2	共通中国語 (38) (初級)	08A4038	張 玉萍	A1A2	2
共通中国語 (21) (精読)	08A4021	田原 史起	S1S2	2	共通中国語 (39) (精読)	08A4039	菊池 真純	S1S2	2
共通中国語 (22) (精読)	08A4022	秋山 珠子	S1S2	2	共通中国語 (40) (精読)	08A4040	李 彦銘	S1S2	2
共通中国語 (23) (会話)	08A4023	喬 志航	S1S2	2	共通中国語 (41) (会話)	08A4041	白 春花	S1S2	2
共通中国語 (24) (作文)	08A4024	鄧 芳	S1S2	2	共通中国語 (42) (会話)	08A4042	李 彦銘	S1S2	2
共通中国語 (25) (精読)	08A4025	菊池 真純	S1S2	2	共通中国語 (43) (作文)	08A4043	白 春花	S1S2	2
共通中国語 (26) (会話)	08A4026	劉 岸麗	A1A2	2	共通中国語 (44) (作文)	08A4044	鄧 芳	S1S2	2
共通中国語 (27) (会話)	08A4027	姚 毅	A1A2	2	共通中国語 (45) (精読)	08A4045	菊池 真純	A1A2	2
共通中国語 (28) (会話)	08A4028	李 雲	A1A2	2	共通中国語 (46) (精読)	08A4046	菊池 真純	A1A2	2
共通中国語 (29) (作文)	08A4029	柴 森	A1A2	2	共通中国語 (47) (会話)	08A4047	李 彦銘	A1A2	2
共通中国語 (30) (精読)	08A4030	岩月 純一	A1A2	2	共通中国語 (48) (会話)	08A4048	李 彦銘	A1A2	2
共通中国語 (31) (精読)	08A4031	秋山 珠子	A1A2	2	共通中国語 (49) (作文)	08A4049	鄧 芳	A1A2	2
共通中国語 (32) (会話)	08A4032	白 春花	A1A2	2	共通中国語 (50) (作文)	08A4050	鄧 芳	A1A2	2
共通中国語 (33) (作文)	08A4033	賈 黎黎	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (11)	08A8011	崔 泰源	S1S2	2
共通中国語 (34) (精読)	08A4034	齊 金英	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (12)	08A8012	崔 泰源	A1A2	2
共通中国語 (35) (精読)	08A4035	韓 燕麗	S1S2	2	共通韓国朝鮮語 (13)	08A8013	崔 泰源	S1S2	2
共通中国語 (36) (精読)	08A4036	中村 元哉	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (14)	08A8014	崔 泰源	A1A2	2

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通韓国朝鮮語 (15)	08A8015	張 銀英	S1S2	2	トルコ語 (8)	08A9440	高松 洋一	A1A2	2
共通韓国朝鮮語 (16)	08A8016	張 銀英	A1A2	2	インドネシア語 (5)	08A9449	高地 薫	S1S2	2
共通韓国朝鮮語 (17)	08A8017	橋本 繁	S1S2	2	インドネシア語 (6)	08A9450	高地 薫	A1A2	2
共通韓国朝鮮語 (18)	08A8018	橋本 繁	A1A2	2	インドネシア語 (7)	08A9451	高地 薫	S1S2	2
共通韓国朝鮮語 (20)	08A8020	伊藤 英人	A1A2	2	インドネシア語 (8)	08A9452	高地 薫	A1A2	2
共通韓国朝鮮語 (23) (初級)	08A8023	張 銀英	S1S2	2	上海語 (3)	08A9455	李 雲	S1S2	2
共通韓国朝鮮語 (24) (初級)	08A8024	張 銀英	A1A2	2	台湾語 (3)	08A9459	王 嵐	S1S2	2
共通韓国朝鮮語 (27)	08A8027	ジ ミンギョン	S1S2	2	台湾語 (4)	08A9460	王 嵐	A1A2	2
共通韓国朝鮮語 (28)	08A8028	ジ ミンギョン	A1A2	2	タイ語 (3)	08A9463	浅見 靖仁	S1S2	2
共通アラビア語 (11)	08A9011	濱田 聖子	S1S2	2	タイ語 (4)	08A9464	浅見 靖仁	A1A2	2
共通アラビア語 (12)	08A9012	濱田 聖子	A1A2	2	モンゴル語 (3)	08A9467	荒井 幸康	S1S2	2
共通アラビア語 (13)	08A9013	濱田 聖子	S1S2	2	モンゴル語 (4)	08A9468	荒井 幸康	A1A2	2
共通アラビア語 (15)	08A9015	オダイマ ムハンマド	S1S2	2	ペルシャ語 (3)	08A9471	前田 君江	S1S2	2
共通アラビア語 (16)	08A9016	オダイマ ムハンマド	A1A2	2	ペルシャ語 (4)	08A9472	前田 君江	A1A2	2
共通アラビア語 (17)	08A9017	杉田 英明	S1S2	2	ヘブライ語 (3)	08A9475	飯郷 友康	S1S2	2
共通アラビア語 (18)	08A9018	杉田 英明	A1A2	2	ヘブライ語 (4)	08A9476	飯郷 友康	A1A2	2
共通アラビア語 (19)	08A9019	杉田 英明	S1S2	2	サンスクリット語 (3)	08A9479	梶原 三恵子	S1S2	2
共通アラビア語 (20)	08A9020	杉田 英明	A1A2	2	サンスクリット語 (4)	08A9480	加藤 隆宏	A1A2	2
ヒンディー語 (5)	08A9421	藤井 毅	S1S2	2	シリア語 (4)	08A9484	高橋 英海	A1A2	2
ヒンディー語 (6)	08A9422	藤井 毅	A1A2	2	広東語 (5)	08A9485	郭 文瀨	S1S2	2
ヒンディー語 (7)	08A9423	藤井 毅	S1S2	2	広東語 (6)	08A9486	吉川 雅之	A1A2	2
ヒンディー語 (8)	08A9424	藤井 毅	A1A2	2	専門中国語 (4)	08B4004	伊藤 徳也	S1S2	2
ベトナム語 (5)	08A9429	加藤 栄	S1S2	2	専門中国語 (5)	08B4005	石井 剛	A1A2	2
ベトナム語 (6)	08A9430	加藤 栄	A1A2	2	専門中国語 (6)	08B4006	楊 凱栄	S1S2	2
ベトナム語 (7)	08A9431	大泉 さやか	S1S2	2	専門中国語 (7)	08B4007	小野 秀樹	A1A2	2
ベトナム語 (8)	08A9432	大泉 さやか	A1A2	2	専門中国語 (8)	08B4008	川島 真	A1A2	2
トルコ語 (5)	08A9437	高松 洋一	S1S2	2	専門韓国朝鮮語 (5)	08B8005	長澤 裕子	S1S2	2
トルコ語 (6)	08A9438	高松 洋一	A1A2	2	専門韓国朝鮮語 (7)	08B8007	崔 泰源	A1A2	2
トルコ語 (7)	08A9439	高松 洋一	S1S2	2	専門アラビア語 (1)	08B9001	杉田 英明	S1S2	2

日本・アジアに関する教育研究ネットワークの活動

ASNETでは、全学大学院生向けの『日本・アジア学』教育プログラムのほかに、以下の教育活動と研究交流活動を行っています。


1. 教育活動

・教養学部 前期課程（1, 2 年生）講義

分野/教養	Field : Art and Sciences	単位/2	Credit : 2
地域文化論 I ~日本・アジア学概論：国際社会で活躍する基盤を身につける 2019 ~			
Area Studies I			
科目番号 Course ID Number	総合科目 B (国際・地域)	使用言語 Language	日本語
担当教員 Teacher	ASNET 関連教員	場 所 Venue	駒場キャンパス 11 号館 1108 教室
授業時間 Semester/Time	S semester, 月 (Mon) 3 限 (13:00-14:45)	授業のキーワード Keywords	日本、中国、東南アジア、南アジア、イスラム圏
対象クラス	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>日本の国内経済は曲がり角を迎え、多方面で構造改革が叫ばれている。一方で国境の垣根はますます低くなり、世界標準（グローバルスタンダード）が押し寄せてくるとともに地球全体で取り組むべき課題も山積している。これからは、国際社会で活躍できる人材が求められている。</p> <p>近年、アジアの成長は目覚ましく、アジアにおける経済、政治、技術、環境など各動向は、国際社会全体を大きく左右する。すなわち、アジアを学ぶことは国際社会で活躍するために不可欠である。</p> <p>本講義は、本学の「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET)」に参画する教員による日本・アジア学の概論と位置づけられる。様々な視点からアジアを切り取る方法論や知識を学ぶことにより、日本・アジア学の魅力を体験し、国際社会で活躍するためにどのような知識・能力・スキルが必要となるのかを理解する。</p>
--	---

授業計画 Schedule	<p>第 1 回 (4/ 8) インタロダクション「地域研究の課題と魅力」(丸川知雄、社会科学研究所)</p> <p>第 2 回 (4/15) ゲスト講師 (泉千年、オリエンタルコンサルタンツグローバル)</p> <p>第 3 回 (4/22) 地域文化研究論入門 (岡田泰平、総合文化研究科)</p> <p>第 4 回 (5/ 2) 課題授業 (文献講読)</p> <p>第 5 回 (5/13) 社会技術論入門 (小松崎俊作、工学系研究科)</p> <p>第 6 回 (5/20) ケース I インドにおける社会基盤整備事業とビジネス (小松崎)</p> <p>第 7 回 (5/27) 地域としてのインド (富澤かな、静岡県立大学)</p> <p>第 8 回 (6/10) 地域としてのイスラム圏 (大塚修、教養学科・総合文化研究科)</p> <p>第 9 回 (6/17) ケース II イスラム圏とハラール産業 (後藤絵美、ASNET)</p> <p>第 10 回 (6/24) ゲスト講師 (中川圭吾、ムスリムおもてなしセンター株式会社)</p> <p>第 11 回 (7/ 1) ケース III タイにおけるビジネス、政治、慣習 (森川想、工学系研究科)</p> <p>第 12 回 (7/ 8) ゲスト講師 (真辺祐子、防衛研究所地域研究部研究員)</p> <p>第 13 回 (7/15) 講義の総括「『日本・アジア学』の可能性」</p> <p>※変更の可能性あり</p>
------------------	---

詳しい情報はこちらで➡ 

- ・スタディツアーの実施 (P.4 をご覧ください)
- ・その他、教育セミナー等も随時実施しています。

2. 研究交流活動

・研究者の分野間交流

東洋文化研究所 (Institute for Advanced Studies on Asia) や東京大学国際日本学プログラム (Global Japan Studies) との共催で毎週木曜日午後5時からセミナーを開催しているほか、国際会議、シンポジウム、セミナー、研究会等も随時開催し、分野間交流を進めています。



国際シンポジウム「ハラール認証と認証によらないハラールを深く理解するために / Toward Better Understanding of Halal Certification System and Halal, Not Limited to Certification」
(2018年7月14日、農学部弥生講堂アネックスセイホクギャラリー)



国際ワークショップ「『非暴力』という戦略、『非暴力』という未来 / Nonviolence as a Strategy, Nonviolence in the Future」
(2018年11月17日、東洋文化研究所)

・ウェブサイト・メールマガジン

ASNET のウェブサイトでは、アジアに関連するセミナーや研究会、シンポジウム等の情報を紹介しています。またメールマガジンを毎週金曜日に発行しています。メールマガジンは誰でも無料で受信できます。



<https://asnet-utokyo.jp/>

詳しい情報はこちらで→



ASNETからのお知らせ

告知・募金などのお知らせです。



2018/12/20開催 / 2018/12/18更新
【第186回】ドイトウン・コーヒー：コーヒーを貧困削減とどう結びつけるか
東文研・ASNET共催セミナー



2018/12/16開催 / 2018/12/13更新
トランスナショナル運動としての「ムサーワフ」(Musawah) ——ムスリム家族内の平等関係の構築に向けた取り組み
国際ワークショップ



2018/12/13開催 / 2018/11/30更新
【第187回】東アジアにおける権威「六朝学」研究——日本収蔵の中國時代文献を中心にして / 東亞樓地下的権威「六朝学」研究——以日本典藏之中國明代文献為考察核心
東文研・ASNET共催セミナー



2018/11/17開催 / 2018/11/22更新 ● 報告掲載
国際ワークショップ「非暴力」という戦略、「非暴力」という未来 / International Workshop "Nonviolence as a Strategy, Nonviolence in the Future"
国際シンポジウム

他団体主催イベント

学内外から寄せられた情報です。

2018/11/10更新

2019年1月22日(火)、26日(土)、27日(日)、29日(火)
アジア諸島の親子関係における子の最善の利益に関するセミナー・国際シンポジウム 第3回「南アジア家族におけるジェンダー」
シンポジウム / セミナー

2018/01/11更新 / 2018/01/11更新

東京大学HMCオープンセミナー2018-19年度第6回
「North India Overseas Labour Migration 1857-1869: origins, intermediaries, and the role of trust (北インド系海外労働移民1857-1869年: 要因・仲介人・信頼の役割)」
セミナー

2018/01/12更新 / 2018/01/11更新

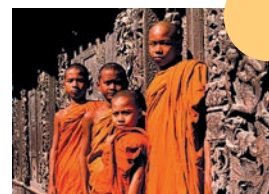
シンポジウム「アジアのLGBTは寺」
シンポジウム

2018/01/19更新 / 2018/01/11更新

東文研・GHC共催セミナー「1524: The End of the Silk Road」宇佐美先生(北京大学)講演会
共催セミナー



Human



Nature



History



Society



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

- 学生のアジア理解を深める「日本・アジア学」教育プログラム(研究科等横断)
- ウェブサイト、メールマガジン、メーリングリストを通じた情報・意見交換
- 研究者の国際交流・分野間交流の促進

ASNETではアジアに関する情報を掲載したメールマガジンを発行しています。

どなたでも、無料で受信することができます。

ウェブサイトから受信登録をするか、事務局までメールで受信希望のメールをお寄せください。

Network for Education and Research on Asia is a virtual network for the education/studies on Asia.

The network issues an e-newsletter for exchange of information on Asia. Subscription is free.

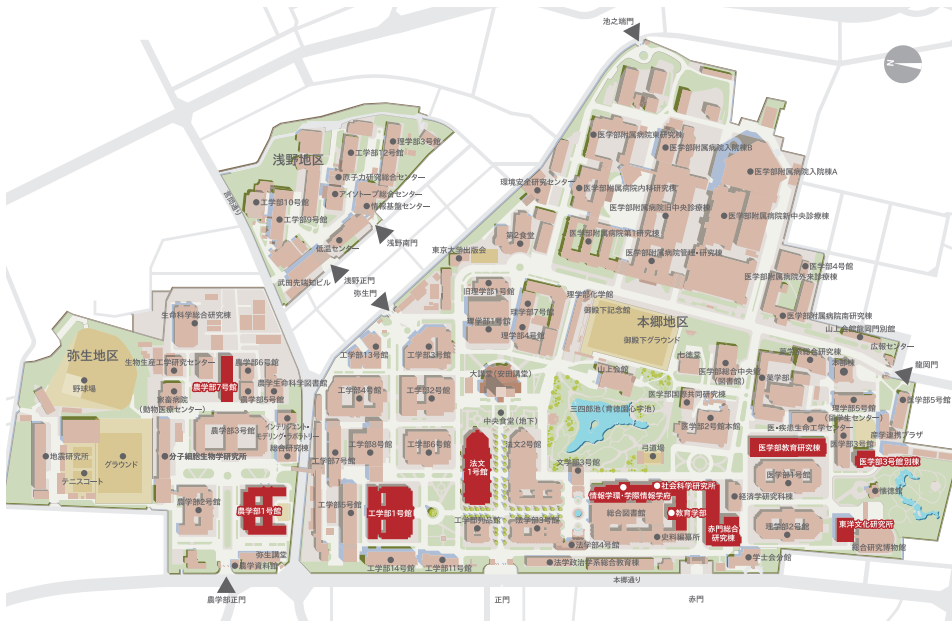
Please register at the website or contact the network office by e-mail for the subscription.

URL : <https://asnet-utokyo.jp/>

E-mail : asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

Hongo Campus

本郷キャンパス



Komaba Campus

駒場キャンパス



連絡先・お問い合わせ先

Contact and Inquiries

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

電 話 / Tel	03-5841-5868
内 線 / Ext	25868
メ ー ル / E-mail	asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp
インターネット / URL	https://asnet-utokyo.jp/